

➤ **文理融合型ジョイント PBL 授業における文化相転移に関するシミュレーション応用の事例**

原 尚幸, 津村 宏臣 (同志社大学 文化情報学部)

同志社大学文化情報学部では、文理融合型学術創生をめざしPBL型式科目としてジョイントリサーチ科目を設置している。数理推論研究室と時空間情報科学・行動計量解析学研究室が合同で、現実世界に観察される「文化・社会の相転移現象」を解明することを目指し、当該科目を設定した。学生は、文化・社会事象のミクروسケールでの相互作用とマクロでの文化の相転移事象の観察・評価可能性の解明を目的にMASの応用を進める。社会・文化・歴史・経済などの多様な分野の課題について、4名程度の計6グループを編成、課題抽出－背後あるミクروسケールでの人行動（振る舞い）に関する検討－相互作用のモデル化－MASの応用と結果の検討、を実践的に学ぶ。